

[年度] 平成 24 年度和歌山県農林水産試験研究成果情報

[成果情報名] カキ角斑落葉病の薬剤防除は 7 月までが重要

[要約] カキ角斑落葉病の第一次伝染源からの感染時期は 5 月～7 月下旬頃までで、秋季に病斑上に形成された分生子が、二次伝染に及ぼす影響は低いと考えられる。このことから、本病に対しては 8 月以降の薬剤防除の重要性は低く、春季から 7 月までの防除が重要である。

[キーワード] カキ、角斑落葉病、感染時期、防除

[担当機関名] 果樹試験場かき・もも研究所 [連絡先] 0736-73-2274

[部 会 名] 果樹 [分 類] 普及

[背景・ねらい]

カキ角斑落葉病は、分生子による第一次伝染だけではなく、発病後に第二次伝染を引き起こす。本県の「富有」の生産現場では、角斑落葉病の二次伝染防止のため、8 月以降に防除が実施されているが、角斑落葉病の 8 月以降の感染程度および防除効果についてはほとんど検討されていない。そこで、本病の感染時期と、8 月以降の防除の有無が発病に及ぼす影響を検討する。

[成果の内容・特徴]

1. 第一次伝染源からのカキ「富有」への感染は、5 月上～中旬から 6 月下旬～7 月上旬まで多く、7 月中～下旬頃まで続き、8 月以降の感染程度は低い (図 1、2)。
2. 9 月下旬に病斑上に分生子の形成が多数認められた落葉病常発ほ場へ設置したポット栽培の「富有」では発病はみられず、病斑上の分生子による二次伝染の影響は小さい (データ省略)。
3. 角斑落葉病に対する防除効果は、慣行防除区と 8 月以降防除を実施しなかった削減防除区で 2 カ年とも大差はない (図 3)。

[成果の活用面・留意点]

1. カキ角斑落葉病に対しては 8 月以降の薬剤防除の重要性は低く、春季から 7 月までの防除が非常に重要である。
2. カキ炭疽病など秋季に感染する病害については、8 月以降も防除が必要である。

[具体的データ]

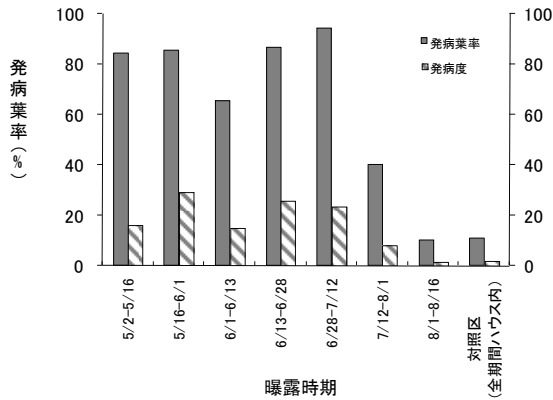


図1 夏季までの曝露時期の違いが角斑落葉病の発病に及ぼす影響

品種：かき・もも研究所内、ポット栽培「富有」、4～5年生。1区1樹、3反復。  
 試験方法：2007年5月2日～8月16日にかけて約14日間隔で、果樹試験場かき・もも研究所内の角斑落葉病常発ほ場に曝露した。曝露期間以外は無加温ハウス内に置いた。  
 調査：2007年9月25日に1区あたり19～30葉について発病を程度別に調査し、発病率および発病度を算出した。  
 発病度 =  $\sum (\text{指数} \times \text{発病葉数}) \times 100 / (6 \times \text{調査葉数})$   
 指数 0：病斑無し 1：病斑が散見されるもの 2：病斑面積が葉の1/4以下 4：病斑面積が葉の1/4～1/2 6：病斑面積が葉の1/2以上

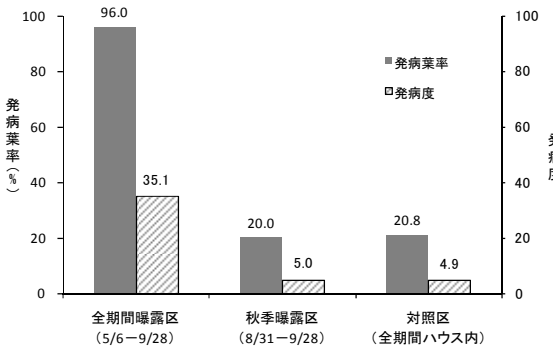


図2 秋季までの曝露期間の違いが角斑落葉病の発病に及ぼす影響

品種：かき・もも研究所内、ポット栽培「富有」、7～8年生。1区1樹、4～5反復。  
 試験方法：ポリビニル製のネット袋(タマネギ貯蔵用42cm×83cm)3袋に入れた前年度の罹病落葉付近に曝露させた。曝露期間以外は無加温ハウス内に置いた。  
 調査：2010年9月28日に1区あたり50葉について発病を程度別に調査し、発病率および発病度を算出した。

[その他]

研究課題名：果樹病虫害防除技術の開発

予算区分：消費安全対策交付金

研究担当者：森本涼子、安井洋子

発表論文等：平成24年度和歌山県農林水産試験研究機関研究報告 第1号、2013

HP掲載の可否：可

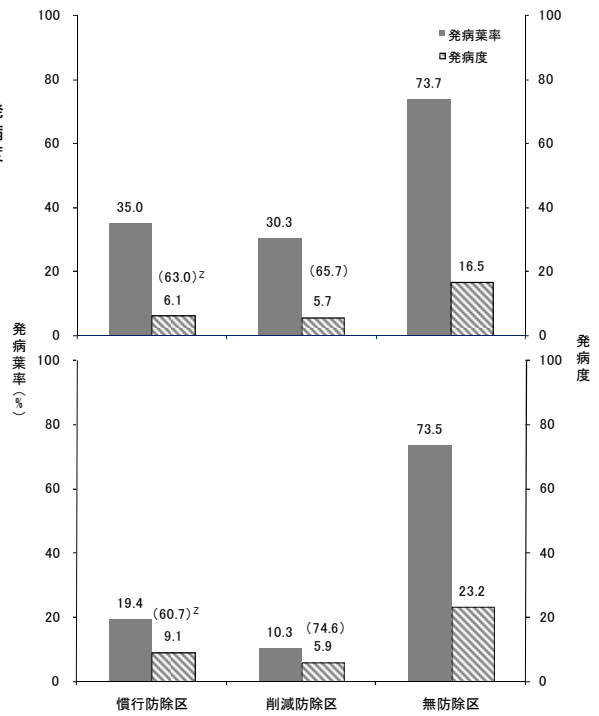


図3 薬剤散布回数の違いが角斑落葉病の発病に及ぼす影響

z: 防除価

(A) 2005年度試験：かき・もも研究所内、品種：「太秋」、7年生。1区1樹、3反復。

薬剤散布：①2005年5月17日(マンゼブ水和剤600倍)、②6月6日(有機銅水和剤800倍)、③6月30日(クレキシムメタル水和剤3,000倍)、④8月4日(ヘキサコゾール水和剤1,000倍)、⑤9月2日(ジフェノコゾール水和剤3,000倍)

調査：2005年10月4日に1区あたり100葉について発病を程度別に調査し、発病率および発病度と防除価を算出した。

(B) 2011年度試験：かき・もも研究所内、ポット栽培「富有」、8～9年生。前年度罹病葉付近にポットを設置。1区1樹、3反復。

薬剤散布：①2011年5月20日(マンゼブ水和剤600倍)、②6月6日(有機銅水和剤800倍)、③6月23日(有機銅水和剤800倍)、④8月9日(テブコゾール水和剤2,000倍)、⑤8月26日(チオファネートメタル水和剤1,000倍)

調査：2011年10月6日に1区50葉について発病を程度別に調査し、発病率および発病度と防除価を算出した。

\*)慣行防除区：①～⑤散布、削減防除区：①～③散布

\*\*)防除価 =  $100 - (\text{薬剤散布区発病度} / \text{無散布区発病度}) \times 100$

研究期間：平成17、19、21～23年度